

意識実態調査でコミュニティを巡回時に撮影。カウンターパートと共に、プログラム内容を説明中。



## トンガ王国って、どんな国

青年海外協力隊 2018 年度 1 次隊 派遣国：トンガ王国 伊藤有未（三郷市）

南太平洋に浮かぶ小さな島国トンガ王国、皆さんはご存知ですか。

今年開催されるラグビーW杯の出場国でもあります。国旗は赤と白、国を上げての応援は、赤を基調とします。浦和レッズのファンである私には、赤を纏い、皆で一体となって応援する姿を見ていると、どこか親近感を感じます。

トンガの人々は、外見も内面もとてもおおらかです。国際協力の現場では

貧困や飢餓を耳にする機会が多いですが、ここ大洋州諸国では肥満問題が深刻化しています。私は、農業・食料・林業省エウアオフィス(日本でいう農林水産省)の女性開発部署に配属され、人々の食生活を中心に、生活習慣病などの非感染性疾患の対策に取り組んでいます。



トンガラグビー開催日の職場。

任地に来て半年。赴任して、最初に始めたことは2点あります。①マーケットでの農作物調査：毎日島で唯一のマーケットに通い、農作物の傾向を掴みます。任地で入手可能な食材を知り、今後の活動で計画している料理指導に活かす他、農業省として島内の農作物を理解し、栽培促進や家庭菜園の定着化を進める予定です。②各村の女性を対象に身体測定および意識実態調査：我々の調査の結果、女性の平均体重は100キロを超えていました。家庭で野菜栽培をしたい、痩せたいと思う女性たちが大半を占めますが、実行に移せないのが現状です。痩せたいと思っても、「明日から！」とつい先延ばしにするのは日本人も同じ。どうやら万国共通のようです。肥満改善に向け、日本のやり方や知識がトンガでフィットするとは限りません。トンガの人々が持ち合わせない発想や考え方を日本人として第三者の目線でサポートする。夢物語を言うようですが、私の活動からトンガの人々が何かを感じ、自らが現地に合うやり方を見出して、最終的にはその改善方法が広く根付いてほしいと考えています。

帰任時には、悔いのない活動が出来たと胸を張って言えるよう「誰かのきっかけになる」を目指し、トンガで過ごす1日1日を大切にしたいです。



同島隊員(任地名：エウア島)でお揃いのトンガの伝統服を纏いました。